



老後の健康と仲間作りに！



人前ではっきり話せるように



一人でも楽しめるよ！



家族みんなで！

詩吟



子連れのお稽古も OK！



ひらがなが読めたら大丈夫



歴史や漢詩の勉強にも

何か趣味を持ちたいと考えていらっしゃる方

ストレスを発散したいと考えていらっしゃる方

歌うことが好きな方

詩吟とは、漢詩や短歌に独特のメロディーをつけて歌うものです。

さあ、あなたも詩吟を始めてみましょう！

稽古場

朝日神社（1階 齋場）土曜日（1か月に3回）午後1時から4時頃まで、お好きな時間に
見学だけでも大歓迎です、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

問い合わせ先

一般社団法人詩吟朗詠錦城会認可 名古屋中支部
担当師範 若月城嗣 Tel（携帯）090-7030-8895、

一般社団法人詩吟朗詠錦城会認可 名古屋中支部

石川文山

四 仙客来遊雲外巔

せんかく きたりあそぶ うんがいの いただき

神竜棲老洞中淵

しんりゆう すみ おゆ どうちゆうの ぶち

七 雪如紈素煙如柄

ゆきは がんそのごとく けむりは えの ごとし

白扇倒懸東海天

はくせん さかしまにかかる どうがいの てん

遊 芳 野

三 古陵松柏吼天颺

こりまうの しょうはく てんびやうに ほゆ

山寺尋春春寂寥

さんじ はるをたずぬれば はる せまりよう

五 眉雪老僧時輟帚

びせつの ろうそう ときはくことを やめて

落花深处説南朝

らっか ぶかきとほろに なんちようを とく

〔作者〕 (一五八三—一六七二) 江戸初期の漢詩人、書家。六六山人・四明山人・凹凸窩・詩仙堂などと号した。三河の人。驍勇で、大阪夏の陣に偉功を立てたが、後、藤原惺窩に学び詩作をもって鳴った。寛永十八年、今の京都市左京区一乗寺小谷町に詩仙堂を築いて閑居した。著に『覆瓿集』、『詩仙詩』などがある。寛文十二年、九十才にて没す。

〔詩形〕 本編の詩はすべて七言絶句。

〔種類〕 叙景詩。

〔詩意〕 富士山の神々しさと清らかさを叙したうた。

〔語釈〕 〇仙客 仙人。

〇巔・淵・雪・煙 いずれも皆富士山のそれをいう。

〇神竜 ふしぎな竜。

〇紈素 白いねりぎぬ。

〇柄 扇のえ。

仙人は来て 雲の上のいただきに遊び
神竜は棲みついて 洞窟の中の淵に老いる
雪は白いねり絹のようで 煙は扇の柄のようで
まるで白扇をさかさまに東海の空にかけたようだ

〔作者〕 (一八〇七—一八六六) 幕末の漢詩人。文化四年摂津に生れ、名は啓。摂津高槻の藩士。頼山陽に詩を学び、七言絶句を最も得意とした。慶応二年没。時に六十才。

〔種類〕 抒情詩。

〔詩意〕 芳野山に遊び、落花深き処に眉雪の老僧が南朝を説くに会ったことをうたつたうた。

〔語釈〕 〇遊芳野 一に「芳野懐古」に作る。

〇芳野 「吉野」に同じ。芳野山の略。芳野川の南岸、大峰山麓にある山の名。古来桜の名所で、また、如意輪寺・後醍醐天皇陵等、南朝の遺跡が多い。

〇古陵 後醍醐天皇陵をさす。

〇松柏 まつとこのてがしわ。墓地に植える。

〇天颺 そらのつむじかぜ。

〇山寺 如意輪寺をさす。後醍醐天皇の勅願寺。正平二年、楠木正行がここに詣で、将士の名を過去帳に録し、詠歌を板壁に題したと伝える。本堂を如意輪堂といい、如意輪観音を祀る。

〇寂寥 ものさびしい。

〇眉雪 まゆのゆき。白い眉。

〇帚 「掃」に同じ。

〇南朝 芳野朝の別称。

古陵の松柏が 空吹く強い風にヒユヒユとうなりを立てている
春を尋ねて山寺までやって来たが 花はすでに散ってしまつて 春景色はそこはかとなく うら淋しい
折も折 眉雪の老僧がいて 庭を掃く手を休めて
落花深きところで 私のために南朝の昔語りをしてくれた